

平成30年度 第1回精華町まちづくり基本構想策定懇話会での意見等について

話 題	意見等
<p>当初は交通インフラの課題や商業施設などもなく様々な不便があり、大手企業の撤退があった。しかし、その後、学研推進機構や京都府、地元自治体が規制緩和等を行い、中小企業の立地が進むとともに、最近では大手企業の立地もあり、商業施設も立地し、活性化傾向にある。</p>	<p>企業の立地が進み、従業員も増えているが、従業員が精華町に居住していないのではないか。</p> <p>これまでは人口も増加傾向にあったが、2、30年先には新興住宅地についても高齢化が進む状況になる。新しいサイクルを持ち込む必要があるのでは。</p> <p>製造業などは人出不足により困っており、今後、外国人労働者の雇用やそれに伴って、町内での外国人居住者の増加も考えられる。</p> <p><u>外国の方と共生するためのコミュニティを形成するような投資や政策を行って欲しい。</u></p>
<p>子育てについての相談や事業については子育て支援センター、子どもの検診になると保健センターと、バラバラで取り組みをしている現状がある。</p> <p><u>精華町にも保健センターがあるが、建物を借りている状況であり、拠点となるべき施設がない。</u></p>	<p><u>健康、保健、食育を含めた福祉の拠点、高齢者から子どもも含めた健康に関する拠点、これらの総合的な拠点があればと思う。</u></p> <p>⇒ <u>防災との関連で見ると、災害時にはボランティアや医療関係などの受け皿の拠点とすることもできる。</u></p>
<p>精華町は物も建物も人材も豊富であるが、様々なことが機能しないのは組織やシステムに要因があるのではないか。</p>	<p>バラバラになっているものを一本化することや、連携を持たせることによりスムーズになるのではないか。</p>
<p>阪神淡路大震災の際に、震源地であるにも関わらず淡路島での死者が少なかったのは、近所の方が助け合ったからであるという話を聞いた。</p> <p>しかし、地元自治会をみると、自治会活動に非協力的であったり、自治会離れなどがある。</p>	<p>自治会の加入率を上げるようなまちづくりが必要ではないか。</p> <p>自治会の加入率の増加は、子育て支援や災害時の連携にもつながることである。</p> <p>⇒ <u>地元企業との交流などの取り組み、つながりを作っていくことも重要。</u></p>

話 題	意見等
<p>議論の中心が南部にあるように思う。<u>北部地域に目を向ける必要がある。</u></p> <p>防災マップで確認すると、北部地域の第一の懸念は木津川の氾濫である。</p>	<p>災害時にコンビニエンスストアなどが機能すれば良いが、機能しないことも考えられる。<u>炊き出しのことを考えると、学校給食が災害時に機能できればすごく良い。</u></p> <p><u>災害時だけ役立つ機能はあまり意味がない。平常時からそれがどう役立つのか考えておく必要がある。</u></p> <p>⇒ <u>給食センターと炊き出し機能</u></p> <p>⇒ <u>打越台グラウンド：受援施設がどのようなものなのか？</u></p> <p>平常時のイメージとしては、北部の方で何が重要かを考える必要がある。</p>
<p>精華町には自衛隊があり、災害時には非常に頼りになると思うが、自衛隊との交流という点についてのイメージがわかりにくい。</p>	<p>航空自衛隊の航空ショーのように、自衛隊としての発信（イベントや展示など）があれば良いと思う。</p> <p>自衛隊など、サバイバル経験のある方に講師をしていただき、小学生などにサバイバル体験学習の機会を持たせてあげられないか。</p> <p>災害はどこか他人事という思いがあるが、実際にボランティアなどで災害現場に行けば自分ごととして感じる事ができる。</p> <p>子どもたちがそのような経験をするのは難しいが、自衛隊の方など、災害派遣の経験のある方の映像や経験談を聞かせてもらうことは説得力もあり、災害を自分ごと捉える機会になるのではないか。</p> <p>⇒ <u>災害派遣経験のある自衛隊の方に来ていただいて講演等をしていただければ、防衛施設のある町として隣の町にはできない防災研修ができるのでは。</u></p>

話 題	意見等
<p>防災講習を受けた経験があるが、課題提起があり、それについて議論はしたが、最終的に正解が出ないま とめであり、問題を認識するだけで終わった。</p>	<p>実際起こり得る課題について、他人事としてではなく、事前に検討しておく必要があ るのではないか。（例えば避難所にペットを入れてよいかなど）</p> <p>⇒ <u>より実践的な防災教室の開催</u></p> <p>⇒ <u>防災拠点を学習拠点としてワークショップや避難所運営マニュアルの検討などが できれば良い</u></p>
<p>町の要望と防衛省の支援事業をマッチングさせる ことが、今回の構想の与件ではないか。</p>	<p>学研都市としてのアイデンティティを活かした施策で防災を実現するのはどうか。 例えば高齢者向けの特別な通信手段や、水位のリアルタイムセンサーなど</p>
<p>学研都市に進出した企業と地域住民との距離があ ると感じる。</p> <p>何らかの形で融合していかないと精華町のコミュ ニティは発展していかないのではないか。</p>	<p>学研企業の展示会に先生が生徒を連れて来ていたが、このような取り組みは良いと思 う。</p> <p>奈良先端科学技術大学院大学でも子どもたちを対象に科学のイベントを実施しており、 子どもだけでなく親にも好評である。</p> <p>防衛省も素晴らしいテクノロジーを持っている。それを住民と共有し、子どもたちが 科学技術に触れる機会を作れないか。</p> <p><u>精華町の特徴（精華町にしかないもの）として、旧住民、新住民、学研都市の進出企 業（最先端の技術など）、自衛隊（防衛省）があり、それを「融合」し理念としてまと めあげることが大切ではないか。</u></p>
<p>防災という観点では、実際に不足している機能が何 かを整理しなければ議論ができない。</p>	<p>不足している機能が何か整理する必要がある。</p> <p>狛田駅周辺など、企業の誘致されているところよりも危険度が高く施設も十分でない地 域が優先されるべき</p>

話 題	意見等
<p>防災マップなどで浸水地域に関する情報を与えられても逃げない場合が多い。</p>	<p>浸水域に住んでいる方をどのように安全に逃がすか。避難された方が最初の数日プラス何日間かをどういう形で対応していけるかを考えておく必要がある。</p> <p>⇒ <u>そのような際に今回のような防災拠点があれば役立つし、自衛隊の支援の仕方も組み込めれば良い</u></p> <p>⇒ <u>受援に関しては、熊本地震の際も課題であったが、施設があれば良いが本当に運営できるかは難しいところである。</u></p> <p>防災に楽しみの要素を入れることで避難を促す工夫が必要。避難所に来れば、みんなで無事を確認し、そこでお茶を飲んで会話をするなど。</p> <p>倉敷の水害をみると、避難してもらうことに発想の転換が必要かもしれない。</p>